

## 平成 25 年度健康実態調査の結果について（概要）

### 1. 調査の目的

平成 24 年 9 月に「カネミ油症患者に関する施策の総合的な推進に関する法律」が施行され、「カネミ油症患者に関する施策の推進に関する基本的な指針」（厚生労働省・農林水産省告示）に基づき、カネミ油症患者の生活習慣、病状、治療内容等について把握し、カネミ油症に関する調査研究を更に推進することを目的とする。

### 2. 調査期間

平成 25 年 6 月～7 月末

### 3. 調査対象及び回答者

各都道府県で把握している 1,590 人の認定患者（平成 25 年 5 月 31 日時点の推計生存認定患者）のうち、死亡や所在不明の方、非協力の意向を示された方を除く 1,406 人に調査にご協力頂いた。

### 4. 調査項目

平成20年度に厚生労働省が実施した油症患者に係る健康実態調査の調査項目を元に、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）で、カネミ油症患者の意見を聞きつつ決定した生活習慣、健康状態や悩み・治療状況、これまでにかかったことのある病気・症状などの項目を調査した。

### 5. 調査結果の活用

調査結果については、アンケートに基づく調査の医学的・科学的解釈の限界に留意しつつ、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、平成20年の健康実態調査及び過去の検診結果等と併せてより詳細な解析を行い、平成27年度の健康実態調査項目などカネミ油症に関する調査研究に活用される予定である。

### 6. 調査結果の概要

#### (1) 性別

・ 男性 670 人、女性 736 人

#### (2) 年齢

・ 平均年齢は63.8歳（男性61.6歳、女性65.6歳）

・ 男性は、「50～54 歳」及び「55～59歳」の者が16.6%と最も多く、次いで、「45～49歳」が13.0%、「60～64 歳」が10.7%等の順であった。

- ・女性は、「50～54 歳」の者が16.3%と最も多く、次いで、「55～59 歳」が12.8%、「45～49 歳」が11.3%等の順であった。

### (3) 生活習慣について

- ・1日の歩行時間についてみると、「90分以上」と回答した者が30.6%と最も多く、次いで、「30分～60分未満」が26.3%、「30分未満」が22.8%等の順であった。
- ・運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した者が48.6%と最も多く、次いで、「週2～4回程度」が17.9%、「ほぼ毎日」が14.0%等の順であった。
- ・飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した者が32.2%と最も多く、女性では「飲まない」と回答した者が70.5%と最も多かった。
- ・喫煙状況についてみると、男性・女性ともに「吸わない」と回答した者が最も多かった。(男37.3%、女86.1%)
- ・睡眠時間についてみると、「6時間以上7時間未満」と回答した者が35.3%と最も多く、次いで、「5時間以上6時間未満」が26.4%、「7時間以上8時間未満」が17.8%等の順であった。
- ・労働時間についてみると、「4時間未満」と回答した者が28.2%と最も多く、次いで「8時間以上9時間未満」が13.9%、「10時間以上」が13.2%等の順であった。
- ・常用しているサプリメント・健康食品・漢方薬の有無についてみると、28.9%が「ある」と回答した。

### (4) 健康・悩み・ストレスについて

- ・日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した者は80.4%であった。また、「ある」と回答した者(1,131人)を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因(1つ)を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した者が35.2%(398人)と最も多かった。

### (5) 介護や日常生活動作の状況について

- ・病院や診療所への入院、介護施設への入所状況についてみると、5.4%の者が入院中若しくは入所中であった。
- ・要介護認定の状況についてみると、40歳未満の回答者を除いた1,396人(男663人、女733人)のうち、154人(11.0%)(男50人、女104人)の者が要介護認定を受けていた。

### (6) この1年間の治療状況について

- ・現在の受診頻度についてみると、「毎月1～3回程度」が42.2%と最も多く、次いで「数か月に1回程度」が27.6%等の順であった。
- ・この1年間の治療の内容(複数回答)をみると、「外来で治療を受けた」と回答した

者が75.5%と最も多く、次いで「油症検診を受けた」が33.4%等の順であった。

(7) 油症患者受療券の使用状況について

- ・油症券の使用についてみると、28.4%（男29.0%、女28.0%）の者が油症券を使用していた。
- ・967人（68.8%）が、この1年間、油症券を使用せずに受診した経験があり、うち306人（31.6%）「油症券の使用を希望する医療機関がある」と回答した。

(8) これまでにかかったことのある病気・症状

- ・これまでにかかったことのある病気・症状については、「腰痛」が72.7%と最も多く、次いで、「肩こり」が64.4%、「全身倦怠感」が63.4%、「皮膚の癢痒（かゆみ）」が58.1%、「手足のしびれ」が57.6%、「便秘」が51.1%、「頭痛」が49.6%、「下痢」が48.3%、「せき」が48.0%、「湿疹ができやすい」が47.1%、「虫歯になりやすい」が46.4%、「たん」が45.4%等の順であった。

(9) 自由記載欄について

本調査では、「これまでの症状や病気について、書ききれなかったことや、特に研究してもらいたいこと、要望など」について自由記入欄を設けたところ、398人から回答があった。いずれも、回答いただいた一人一人の貴重なご意見ではあるが、個人情報を含む内容もあり、また、公表にあたっての認識が一人一人異なることから、本報告書には主な内容を記載するにとどめることとした。

※主な記載内容

- ・自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について（238件）
- ・職業（仕事）に関する苦勞について（8件）
- ・経済的な苦勞について（11件）
- ・治療法の研究開発への要望、期待（60件）
- ・病院、医師、検診に関する要望（27件）
- ・行政機関に対する要望（46件）